下卷

明治十五年

壬午日誌

宮島誠一郎

養浩館文庫藏書

早稲田大学図書館
文書27
A 60
2

八月一日　大

終日在宅日々新聞に関する朝鮮の事静かの窺

二日　水

朝、京城より韓事変分の緩急の談、余に考ふる夜朝鮮の暴挙の事既に思ひべしと雖も但し自分の所作は如何に仇敵の激怒より蒙るべき生死は我身に於て十分の覚悟なるも今日の事変は内閣の折衝薩摩の様子如何皆是れ如何なる結果を生ずるか予測し難し則乃ち書付の頭に貿大の元を着手なれば不極為めに加へ情実に帰納せ又不顧仮令天津条約の米韓修復の起事を決し

我邦ニ於テハ独立ノ形勢ニ於テ大関係ヲ生ズ
ベキ筋合ニ付朝鮮ニ対シ試兵ヲ即チ陸海ノ関係ニ
於テ我国ト敵対ノ形勢ニ有之候ニ付先第一
着ニ清国ニ使臣ヲ派遣スルハ當然ノ儀ニ付軽易ノ事ニ
御坐候ヘ共一大事ヲ起シ迚モ初ノ発ニ大局
ノ形勢ニ関シ一刻ニ於テ緩ヲ生ジ情ヲ誤リ
有之ニ付一戦ニ及ブハ所要ノ位置ニ有之候
但出兵ヲ先ヲ以テ国際ノ権ヲ失シ又ハ国体ヲ
傷ケ候ヘ共ニ代ヲ立ルニ至ル
大ニ国家ノ経ヲ則チ人ノ
三条公建議ニ方ニ我ト之ニ生ル事実ヲ詳ニ

右人ヲ議ス

清国使節派遣ニ付建言

今般朝鮮暴徒我駐劄公使館ヲ襲撃ノ報ニ
一変シ彼ノ事情ハ探知シ上問罪ニ出軍ヲ
然ルニ当今第一着手ニ清国使節派遣ニ上策
ハ朝鮮ノ為ニ第ヲ
ヲ厚国規ノ為ニ於清国ニ
可ク決ス本邦ニ於テ朝鮮ニ対シ初ヲ
内閣ノ事ニ清国不属ニ関係ヲ
乃ち尊共朝鮮ニ清国ニ於事大ノ道ニ従事

と雖も国類を以て結合し仮令政府は無用に帰
するの中心を偏重するも敢て我が経済の事情を考へ国家の
関係を顧みる事能はざる国民に対し公事を起すは但し彼
政府治者の権力を以て公法照らす所を濫用公法に関係
なき民を強制するの及ぶ所来を詳審嘗て謀略を
以て通和の沖を以て此の日は
是れ情実を不拘隠忍穏密の情を以て
以て実法を使節に伝達する所方を
徹し強力なる決議謹而

此章案を起草三條殿下
御内覧を仰ぐ
一 右の事件に付き内閣に於て
外務卿 伯爵井上
関係者の長官に対し本日午後出張
書一先内閣の意見を
二日
早朝書面清国公使に
両国間の交渉

清國公使館ヲ自ラ警衛シ居ル為メ軍
艦ヲ長崎ニ送リ後到ノ報アル事ヲ要
請シ彼モ亦如キ事情ニ在リ隣邦ノ誼
ヲ以テ軍艦ヲ長崎ニ送ル事ヲ約シ其
他諸事ハ不日ノ急ニ出ル事ヲ期シ
ト雖モ如キ事勢ニ於テハ不日ノ急ニ
ハ出ル能ハサルヲ以テ其間ノ事ハ
ヤ大ニ憂慮スル所ナリ
今日ノ景況ハ実ニ容易ニ難ク
通商條約ノ如キ要件ハ電報ニ
ヨリ外務卿ノ指揮ヲ待チ
或ハ公使英ノパークス
ヲ同伴シ此機ニ乗シ軍艦ヲ
以テ一戦ヲ交ヘ
ハ
実ニ拙ナル所ナリ
我輩ハ
決シテ小説ニ
朝鮮ノ
事件ヲ
ハ
海外ノ
如キ
ヲ
以テ
ハ
ヤ
ハ
細ハ事ヲ
ハ
ハ
ハ

地方を苦めし大好策を採り隣邦人のこゝろ信用せしめ
政府の人情を其堂々不動の信用を表し威権
を異にして名実共に為し難し於乃不実験に
さい井上馨より函館に出張たい軍艦海陸兵器と
高島西少将屋内日進天城の軍艦ノ多能を勢信
力も機会不後し信安心政事於乃其方法
通一我国策等を我独立外交策
約に三度建言に表れ第一公使館に年来に
政府に対するの事しして於政府のの信用
いまし一言面目と政朝鮮に対の事に異変事

遂等韓人の愛に引分り昨年末奥宮浩策植
等に法国天津条約に形一度引き出し米韓
保約草案を於天津領遣志に基き第一款
右中国属邦と名義但し事に米国人不甘受仏陳
一款去れ形勢有も法国人に弟仏侵略屋
事を紀問せしべし
於事件以前去年に出来
あ見地方を放棄せ
はるの不可に為難有少就ても
法を為屋々々

海防掛

高橋屋ヨリ陽一波せんを長野屋ヨリ送ル

今日芋澤来ル　醤油ヲ上京ノ為ニ仮ニ上野

ヘ送ル　高橋ヨリ上野家ヘ別用ヲ

仮ニ芋澤ヲ上ル　赤漆ノ別ヲ用ヒ

ヲ仮用ス　高橋ヨリ来ル　乃ち

上ヲ送別ノ為ニ不起海サレハ事理紊乱ス　仮ニ上野

防州ヘ別ル

勝房州ヘ高橋ヨリ　仮ニ上野

四

筆地石屋ヨリ球屋墓代十三両僕郎ヨリ三両復

ヲ訪ス光院ヨリ勤ル事ヲ告ル　仮ニ筆地素哲

ヨリ書状ヲ到ル　玉琴代金ヲ送ル　仮ニ筆地

ヲ謝礼ス　仮ニ場本ヨリ書状一回幸銭

藤園来ル

早朝吉井ヨリ訪来　細ニ高橋別ノ事ヲ話ス　仮ニ

事ヲ報ス　高橋ヨリ使節ヲ送ル　事ハ文ヒめろ

淡判但ス　夕晴ヲ任節ヲ送ル　方ニ

晩来吉井来ル　俄ニ大雨如傾盆ニ風起ル　木皆

震

晩天ら山を引て苅沢ら上郷列山和嘉澤ら
森中條に不本中條ら北部立伊多保温泉ト云ふ苅沢
白川ら重郷に向て出て温泉ら入り野に根元
中條ら苅沢を上郷ら分れ嘉澤に接す此間ら
郷ら中條ら中郷ら此間ら此間ら
苅沢ら出て仕度ら家屋ら清し仕
蔵ら鍋板ら出て陸を不當ら不思ら

昔　土曜

紀三庫ら膳を奪ふ朝鮮事ト言ふ
後事に黙して改革ら行ふ雑理ら上ら長ら

大得意ら議論様ら顔なすら佳要ら使ら
要ら北信ら業績ら保ちの事ら此報番
後に不足ら[illegible]但友人ら
始て[illegible]氏ら作法ら[illegible]官あり北海ら[illegible]
北海ら事伊藤ら一分ら不[illegible]行き実行ら[illegible]
大ら好後ら[illegible]北言に我方不午但ら
休暇ら温泉ら[illegible]ら[illegible]ら[illegible]
ら[illegible]ら[illegible]不知[illegible]見当ら遠ら
必ら後ら[illegible]遠に肝要ら[illegible]
業井塩ら[illegible]ら[illegible]ら[illegible]ら[illegible]

[illegible]ハ[illegible]ニ[illegible]ヲ[illegible]ル[illegible]ヲ[illegible]ル[illegible]ヲ[illegible]ル

七日

新聞紙ノ記スル所ニ依レハ清公使林薩摩ノ事ヲ報スル国ヲ言ヒテ訪吉井昨日帰京シ別ニ清公使ニ事ヲ議ス松方頗ル幕府ス終ニ使ヲ一昨日外務省ノ照会ヲ曰ク本大臣ハ昨日北洋大臣ヨリ電報アリ中国今為貴国軍艦三隻ヲ朝鮮ヘ遣ハシ調停ニ付疑惑無ク扶亟急尤為建忠之事ヲ管理スルヨシ且彼ノ本国ニ三回電信ヲ発シ(井上ノ書ハ)初交ハ(井上ノ書ハ)無事ニ取リ扱ヒ衆情頗ル譁ニ至ル急ニ軍艦三隻ヲ韓海ニ回スベシ(右ノ書ハ)暗号ノ此方ニ知セリ

三日ニ出勅ヲ

昨日ハ休日ニモ

聖上内閣ヲ臨御

宮内省ヨリ出勅ヲ勅ヲ奉シ

ヲ不許ス

政府ノ内閣ノ倚ノ拒ハ不拒ハ不問ヒ

或ハ清国ヲ迎ヒ必常ニ依日前ニ

来ル韓地ニ形勢ヲ

清国ノ倚ノ事ハ俄人ハ信実則

勝敗ノ事ハ

清国ノ倚ノ事ハ俄人ハ

清国ノ倚ノ事ハ

松方贈書有之

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今

午前七時引出発家族方面へ出張致し
多忙法廷関係の事情御参考の為陳述致す
御参考に供する為に老ひ上の家より御出張を願ふ
旨は出張に際し仮令人事部長なりとも
時々考議を加へたる上にて不定議の事柔弱なる
事の如き如何なる原因に基づき来
候に付事件の簡要事件のみ御出張を願ふ
只今事務繁多なる故本日より
出張中の御事務は明日の事
務所にて御出張の事

（第七）

宮島氏

みなと分書類の言葉の調査の為に当社員
を使の旨を到へ申出なる事なれども
書類なく寸心なる故に助力をなすべき事なれども
実用なる為に明日午前十時迄に
提出の為に明日より有別封
先に御相談致し度公使の新設
書類完結なる事の為此件に付与総部や
変人
第一号を以て御相談致す事を
十月四日付下総
方面出張

五ツ半後中ノ口会社出ル書物ヲ書ク
七ツ半ヨリ拝見ヲ了ル元帥宮ニ筆紙
一後ヲ書ク時ニ時情ヲ以テ書ク
彼ノ外人見物アリ神戸泊ノ蒸汽
美実場ニ臨ム六ツ半事ヲ了ル
又自家ニ帰ル同事書ヲ
書ヲ終ル
有ヲ分ル
九日
此夜自宅ニ書物書ク 五ツ寝ル

薩国ヲ 本村知使ヲ来ル 拝事案ヲ 御国ヲ
相談ヲ行ル
十日 宮内省ヲ明ル事
薩国ヲ 五ツ半ヨリ来ル
七ツ半迄逗留 晩食ニ中井桜ヲ
ニ山長ヲ 日ヲ書ヲ 十日ヲ
九ツ半後来ル 中井徳ヲ 伊藤院ヲ来リ
相談ヲ

今朝午前八時馬関菱ノ電報宮本外務大書記官ヲ吉田大輔完
明治九ヘ花房高島等衆組出艦ヲ 天城艦 釜山ヘ向フ 出艦ス
佐世二人 廚官二人 雇二人 医一人 諸術士 二中隊 二十隊 四時出艦ス

朝鮮ノ變報

去四日磐城艦下ノ関ニ着港花房ヨリ水野大尉ヘ報

堀本中尉池黒沢巡査三名皆殺サル　王妃世子妃

李最應金輔鉉閔鎬閔台鎬尹雄烈モ殺サル大院君政事ヲ執ル

公使山浦無事　国王無事　王ノ妃其他大臣貴官十二名死ス大院君

政事ヲ取ル　磐城艦長青木少佐海軍卿ヘノ電報

又六日花房ヨリ報ス

磐城艦帰着京城ノ模様ハ堀本岡田池黒沢及三人ノ巡査皆殺サル

大院君王宮ニ押入リテ王妃并ニ世子ノ妃ヲ毒殺シ李最應金輔

鉉閔鎬閔台鎬尹雄烈其他ノ者殺サル大院君政事ヲ取

又政府ヨリ東萊府使ニ命シテ我領事ニ報知シテ曰今回事件ハ

他部ノ騒擾ヨリ起リ其結果遂ニ公使館ニ及ヘリ兵隊皆

蜂起セル故ニ日本公使館ニ保護ヲ與ヘテ得サリシハ甚遺憾ナリ

云ヘリ

王妃兇関昶翊参判ハ京城近傍ニ潜伏セリ

六日午前六時金剛艦発下ノ関近藤頭事以下乗込ム磐城艦

巡査乗込ム

七日午後七時下ノ関井上外務卿及　磐城金剛ノ二艦ハ既ニ朝鮮

ニ行キタリ　天城日進ハ未タ着セズ

清國軍艦三隻
仁川港ニ入ル

十日

[illegible]木村[illegible]平[illegible]南[illegible]仁川目録[illegible]
晩方[illegible]物[illegible]
日本[illegible]物[illegible]
[illegible]一法[illegible]

十一日 土曜

[illegible]藤園[illegible]
[illegible]櫻井[illegible]造[illegible]朝鮮[illegible]開戦[illegible]橋本
[illegible]

三條家ノ[illegible]
[illegible]

花房皆
仁川港ニ入ル
清國軍艦三隻
先キニ在リ

[illegible]仁[illegible]島[illegible]
[illegible]
[illegible]下[illegible]

十三日 日曜

[illegible]三[illegible]
[illegible]井上[illegible]書[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

井上馬場卿
皆様御参殿

十六日　晴　蒸暑　一晩夫ち雷雨

午後二分おゝ大雷雨　不安易四児女皆驚惶

一石新例雨亦甚雷光注射　郡中日暮孫兵衛来

ゝ雷ゝ暴甚ゝ雷ゝ前雷あり　晩来頻ゝ鳴りし雨

黄昏ゝ雨止　夜ゝ星多し　明日ゝ晴天ゝ

節郷を議北海道開拓ゝ朝鮮ゝ付ゝ論

ホルモ　ゝ中大山七郎来

十七

郡山来　一云を聞り　昨夕前の神隠童子

雷ゝ雨ゝ　拒絶ゝの事ゝ

第七

ゝ訳問屋ゝ

お濱結婚ゝ　ゝ

郡ゝ法ゝ大ゝ兵衛ゝ　ゝ

ゝ屋ゝ訪屋ゝ　ゝ

ゝ日ゝ　十日来

十八日

郡山来　新聞社書生来　孫兵衛来

お新ゝ日暮ゝ　ゝ

ゝ月日ゝ　ゝ

ゝ論ゝ

二十九日 二十日 指師 三十日 まい 二十三日

有

昌の松方公使国公使の挙動に非九も感じ之
非を交際改一変其互に亜細亜洲に大勢も支那日本の
情を勝心に布て討論所旨に付平松方と談話昌の
旨を媒介して亜際の改を探ぐ我曰く亜廣重
行の亜際に甚不願そもそも往風俗文士に雅會不過絶
廟堂諸公の彼と交り
書簡書力スベシト引受タリ 見今此事義の学の所

○松方も亜に行き知行利要の卿中に成郎に於て我者に我を山を物者を物者を物者
十五日 ○山部に郎に酒の為の為に決て勝烈に為に
於松方に為に筆に法に

高に行り 途中に遊 高郎公使に 日光に遊 つかし 宿に泊て

高に行り 途中に遊 高郎公使に 日光に遊 つかし 宿に泊て

高に泊り 人に 所に 対に 仕に 供に 伝に 信に 事に 到に 廟に 堂に 所に 有に 旨に 決り
歌に 俗に 祖十分に 懐に 感に 慨に 大に 同に 小に 異に 而に 日に 光に
日に 光に 宮に 離に 共に 書に 力に 尽に 書に 不に 好に 到に 松に 方に 大
に 祖に 一に 日に 共に 十に 分に お に 様に 々に 仰に 松に 方に
帰に 途に 高に 宮に 遊に 出に 動に 々に 常に 法に 公に 使に 一に 週に 日に 光に 遊に 而に
に 去に 何に 度に 也に 不に 知に
宮に 杉に 区に 泉に 赤に し に 十に 時に 後に 発に
松に 高に 山に 寺に 発に 殺に 不に 申に 中に 伊に 第に 院に 丸に 於に 房に 屋に 帝に 殿に 参に
高に 屋に の に 様に 趣に 一に 曲に 西に 又に 昨に 日に 住に 屋に 吉に 井に 大に 山に 邸に 渉に
人に 所に 宮に 殿に 方に に に 天に に 天に に 天に

二十日　○[illegible]

二十日　○[illegible]

[illegible]

二十日　晴

伊藤侯　陸公使ヨリ　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]為漢文章法支離不成文理唯寸心不自欺者幸焉

壬午八月二十日　宮島誠一郎　再拜

黎庶昌閣下

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

黎庶昌答書

昨承手翰并大疏一通拜領再三佩服之意迄示跋志
敬言不足稱鴻文也敝署公事尚多惟暑氣未退切
清涼之候耳　閣下如欲与友惠論此稿涼之日為宜

宮島誠一郎閣下　七月初九日　黎庶昌再拜

二十者

[illegible]

大山氏[illegible]鄭黑面[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

張載書了

午後清谷使黎庶昌ノ訪ヲ筆話

前日拙文不備幸被許大跋今日特来謝

黎曰大著頗似漢人筆意僕愧未能積美得透

自今一切就閣下學古文希不棄遐棄

黎曰閣下為此言令我愴懐ヽヽ也

僕有一心契ヽヽ友姓松方名正義僕平生所傾許此

友求交閣下現官大藏省兼議願月今与渠往来

猶如与我往来敢請

黎曰閣下所交ヽ友定非凡品僕日前信内已許之矣今日何

以未蒙相形

前日書信中未言其人誰氏故以今日来請閣下

倘許ヽ則願与我百訪渠宅如何又武帝微廬ヽヽ談

来不妨未知閣下意向

黎曰稍凉當可造命ヽ君何不與之俱来其人如諸葛

君ヽ可就見不可屈致也一笑

僕ヽ今日所以不同来如前言但此際想貴館應多冗

若能有暇則百偕松方来ヽ談

黎曰近日無甚多事可請閣下與貴友皆来一談不拘

何日俱可

近日朝鮮ノ事前於信内述ヘ實慨嘆閣下亦
當朝類貴意
黎曰都ヘ變真非意想及聞花房公使入都後館
禮甚優想貴邦ノ事不難照約鏞結惟大院君敬
大臣酬毒王妃專執國政此亦奸人ノ尤敵國與聞内亂
適承其敵當未知果何結局耳
右畢ノ後北一東ニ就テ者ノ朝鮮ノ休朝鮮ノ内訌ヘ
贈ヘ意見ヲ
北京ヨリ帰ル松方川村両氏ノ東仏両公使ノ
書信ヲ手ニ北京ヨリ帰朝ノ
ヘ交際ノ成ル
二十七日樓本送別ノ節放精養軒黎庶昌ヘ面會備筆談
彼ノ意内ノ伺ノ
氣候漸涼
黎曰然
近日僕為主於紅葉館招閣下若夫日ニ小酌
黎曰不敢當
十日下日以告

黎曰多謝

公一游此館否

黎曰曾到過此館

此間暑威減過一兩日請招駕

何公到北京否

黎曰已到京

二十四時午前六風南起午後北轉

船高略可見其形

古樹叢叢[illegible]

[illegible]

午前大山[illegible]

午後[illegible]

[illegible]

[illegible]

出帆 三月二十五日 巳ノ刻

芥川ヲ本宿ト為シ諸船乗組ノ者ト川筋ノ事ヲ相談ス

松平所ニ於テ食事ヲ為ス

二十日 晴

朝樋口真彦入来。北沢正誠入来 備書ノ討賛ヲ求ム

来。○榎師来。○東久世

大山参議内ニ出シ西郷参議ヨリ報来

あら大山家ニ寄ル 吉井ニ寄 面会 愁歎

大山ニ煙草大箱入 五十本 一丁三銭 巻一箱

午後黎庶昌ヲ訪 筆談 之ヲ略ス

相吉井ニ寄ル 松方川村参謀来ル 紀氏ノ

アリ 北京公使館ヨリ 有報 昨夜朝鮮事

ノ件ニ就テ何ノ迄モ日本ノ関渡ノ区域ニ不干入ヲ

切リ分ケテ申ヲ乞シ 大抵北海陸西兵ヲ集ル

ル人数三百余 他幣三百余 今三年ノ内近ク引セバ五百余ニ上

ルベシト 松方川村抵ル一四屋ニ八軍中ヲシ

視ル木ル

二十六日 土曜 晴天

榎師来。○東園来ル 帰師野ヨリ使来ル 急ニ参ル

清國公使より昨日拝受致候旨の来翰
藤園来文章書を以この分お拝受
午後一時六山墓葬遥拝青山に到り葬礼に参
列致候後帰宅盛儀
晩来伊藤氏に十五日参内怪我の
別紙韓人尹致晃尹雄烈義人八才
中村只吉氏面会
しの拝受難然知人
張国卿
実行相済
二十六日
二十七日日曜
榎師来。北沢氏義務引
こ汽車
弘毅尹雄烈免福島日本に
信吉
丁寧に酒飯
禮儀
六時精養軒に到興
国会公使黎庶昌
稅務
一時
二十七日
榎師来。北沢氏義務引
こ汽車
弘毅尹雄烈免福島日本に
信吉
丁寧に酒飯
禮儀
六時精養軒に到興
国会公使黎庶昌

[illegible]月色好

二十日 晴

出船帰来。加藤宗[illegible]東へ北京し書画を惠贈ス

赤坂迄ハ第伊勢船[illegible]ニ乗ル二十三日ニ帰京

ヒヒト云フ国ニ陸地ハ長沢ハ別荘青月ノ家

[illegible]。印刷局ニ写真来ル

芳谷ノ四舞妓ハ[illegible]ノ所ニ来ル

[illegible]ノ話 [illegible]

明朱青月ニ[illegible]十五枚ヲ伊勢物語ノ

[illegible]青月ニ大方[illegible]

二十一日 大

[illegible]来上野十三里[illegible]

[illegible]七年ノ[illegible]

[illegible]ノ[illegible]

[illegible]

[illegible]三[illegible]

[illegible]上野長[illegible]

[illegible]小松小森[illegible]

[illegible]月ノ[illegible]

三十日 晴 水曜

[illegible]興[illegible]

摺師来

摺師ヨリ到ル 社野ヨリ、三回送ル。

松方時ヨリ送ル書面ニ付、[illegible]

月末ニ[illegible]

[illegible]

三十日 晴 蒸暑

摺師来 [illegible]園来談 自録ヨリ[illegible]

十時明治生誕[illegible]青山[illegible]

長岡[illegible]山[illegible]義ヨリ[illegible]本ニ[illegible]

[illegible]の書状到着ス

三條家ヨリ書状ヲ送ル

前ノ件ニ際シ[illegible]

[illegible]

[illegible]園ヨリ[illegible]

御[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

明治壬午十五年日誌

九月一日　八十六度

宮内省出勤　恵卿　岩公ニ面会　伊藤ヲ濟初ノ出勤

香川出勤　摺師来ル

松方ヲ一封ヲ紅葉館ニ送ル　乃木宛ヲ送ル

尊墨ニ郷ニ面会　外務金子中将ニ会ス

第五ニ会ス　二名ニ上申書ニ付キ方

出張出宜ニ付キ　この件ニ付キ

九月分

高橋隆興

手紙吉井ハ高島家ヲ辞ス上ハ横浜ヲ出ル心
杉方ハ第一同時初対面ニ愛敬程幸ヲ
陸ノ分美金ヲ渡ス大原農商務大
書記官ヲ以テ西郷ヲ伺ハシム西郷ハ北地
ヲ北縣ヲ以来ル極月帰京ス
同行使ニ那ヲ出ス但ハ北海ヲ置縣ヲ
ヲ厚ク黒田ヲ大書ヲ西郷ニ朝鮮ヲ
作ル事ヲ申ス但第ヲ愛シ開智識ヲ
中ヲ以テ又ハ岩公ハ行移島閣議一見ニ西郷
家ニ原ル

一朝鮮ニ報告ヲ送ル政府ヲ結ル
外長同盟ヲ不来一時ハ此ハ根ヲ拘留ヲ
使ヲ公使ニ赴任ス就テ山ヲ盛義ヲ来ル
ヲ以テ此事ヲ為ス寺ヲ行
ヲ陸ヲ物ヲ
拘留ハ第一法辯ヲ吐シ
言吐
所夜ヨリ下痢ヲ氣ヲ
言ヲ誕生日春暦七月仍テ昨年奥州行ヲ
ヲ陸ヲ差辯ヲ招キ餅ヲ搗キ振舞

板垣上泉草刈友義　黒井貞二　宮井秀　長田
季四郎　吐才海　上設の尊夫人に影像の
安置　その他親族信一中川外も来り振る舞
酒を酌む晩天より皆こぞりて帰る
一　金能安澤に日本雑子代一円七十五銭五部代
菓子一箱一円　二十銭　外　三国六十五銭の賜
高橋親英に仏書借受　長田一任中迄
ちゃ書入
三日　曜　午前　雨　午後晴

昨夜より深雨濃霧　道路顛倒　実難渋一
帰
朝　九時前　楊本に来る　他出　長岡に来る
共に長岡に来る　長岡　楊本　極山　川崎
今朝朝鮮一報（昨夜九時馬関発同十時三十分外務省へ電報達ス　近報）
王八先月二十日謁見の與へたり　拙者へ要求書の呈せしに　王八
宰相　本事件の委任スルトスヘシ　三日間回答の待チシが其翌日宰相
書東の贈り彼へ新に王より他出スルの命令の得ルと云へり　事件大
関に附し協議及望更にナカリシ　依テ書の國王に贈り京城の辞
去せり　其遅上一書東来リタレども只先の書翰の返事ナキ既に

物浦ニ到着スルニ及ンデ倘更ニ書柬來リ彼方ニ於テハ出張シテ
事件ノ協議スルヲ好ムノ意ヲ記載セリ拙者コレニ回答スルニ二日間
辭去ノ猶豫スルヲ以テセリ既ニ爾全權委員李祐元同副委員
金宏集來リ談判ヲ開キ遂ニ三十日ニ於テ大滿足ニテ條約ノ
締約ヲ終ヘリ（此報ハ卅日午後一時三十分仁川拨錨ノ迅艇ニテ二日馬関ヘ着スルナリ）

井上外務卿殿　中山ノ經テ花房

朝鮮ニ於テ花房公使役官吏ト談判結ノ大略七ヶ條

朝鮮政府ハ二十日ニ叛徒逮捕シ首謀者ニ罪ヲ加フベシ右審判
中我之ニ立合フベシ

被害者家族ノ生計ヲ扶持スル為メ五百圓ヲ拂フベキ事

朝鮮政府ハ朝鮮人ノ為メニ生シタル損害并ニ費用ヲ賠償スル為メ五
十万圓ヲ益年十万圓宛年賦ニテ拂フベキ事

我公使館保護ノ為メ我兵員ヲ屯駐セシムベシ朝鮮政府ハ兵營
ノ建築并ニ修繕ノ費用ヲ負擔スベシ但シ一ヶ年經過ノ後ハ我
公使ノ見計ニ依リ兵員ヲ引拂フ事アルベキ事

朝鮮政府ハ國王ノ書簡ヲ以テ謝罪ノ為メ特命ノ使節ヲ派スル事

元山津東萊府仁川府ノ條約定規ハ今後朝鮮里數百里ニ擴ムベシ而シテ一年ノ後
スベヘク且二年ノ後ハ之ヲ朝鮮里數五十里
揚華津ヲ貿易ノ為メ開クベキ事

公使領事并ニ其屬員及其家族ハ禮曹ヨリ發スル旅券ヲ携乃

帰スハ内地旅行スル事自由タルベシ各地方官ハ旅券ヲ検査シ旅人ヲ護衛スヘキ事

九月廿四日報知ヲ別紙達シ候ハ枝条

長崎ヨリ承ル所ニ依レハ国内大院君ヲ軍艦ニ横載ス国ハ条ヲ以事ハ頗ル沈府ノ秘密ニ属シ但シ此一条ハ頗ル怪ク問題ニ関スル書類ニ付ク書類ハ目下ノ情勢如何ニ関スル事ハ詳ナラス

日韓ノ関係上別ニ変状ノ報ナシ旨略ク枝兵ハ一度ハ一摩ヲ却ル事北年ニモ張恭儆

尹雄烈ハ者ハ着京ヲ待ツ面会ヲ拒ム

拒ム理ハ自分ハ病ヲ理由ニ接ス

第四ノ報ハ支情ヲ探知ス

中国ハ仏山城ノ城砦ヲ云抗議ハ

なし本年ハ外務省ハ

郷ヲ拒ム面接セス他ハ多忙ナル

為ト

九月十三日

高橋先生侍史

常山新画板ニ注ハ

地獄

[illegible]
我国において[illegible]策[illegible]
意到[illegible]
定[illegible]
上策[illegible]
[illegible]
助[illegible]
[illegible]
九月五日記

日韓[illegible]

[illegible]去報[illegible]
此人一昨年一月[illegible]
磯溪[illegible]
[illegible]
男昨年末[illegible]
十八才[illegible]少年[illegible]
[illegible]日[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

九月二日

晩餐ノ後大院君ハ清国ノ使臣ニ対シ朝鮮ノ事件ハ
其ノ来歴ヲ尋ネ合ヒ事ヲ物
ヲ以テ山城河口ニ於テ韓人ノ尹会辰ノ物
一丁目十七番地山崎屋ノ河口
ヲ不生ス
一決芳沢改過入来後活潑
ス

清字

一昨日ヨリ年後九時半ニ五月馬関発ノ我特別通信紙ヲ
ヲ報ス是日ハ新月

二十三日談判敷ハス公使ハ京城ヨリ濟物浦ニ引揚ル韓
延ス使節屬ス来リ三日ハ談判完結然ニ我要請ノ
彼ノ書ヲ之ニ應ヒタリ

二十六日馬建忠ハ京城ニ入リ饗宴ヲ托シ大院君ノ
其陣営ニ招キ之ヲ諭シ遂ニ漢陽ニ在ル清国軍艦
来ラシメタリ丁汝昌ハ同日直ニ大院君ノ連レ天津ニ向ヒ
出帆セリ北京ニ護送ニ為ヒタリ
宮内省ヨリ出勤ス長崎住大尉ヨリ内信ヲ持来電報

花房大院君ニモ一面セシコレ二十三日花房手切り出ル去ラントスル節馬建忠花房ニ告ケテ曰如斯迄帰ル可レ
花房濟物浦ニ来ルニ及ンテ馬建忠京城ニ入リ御食度ニ托シテ
大院君ヲ門出シ直様二十六日漢陽ヲ発船まりしてハタ
ニテ相運ヒタルコト此度ハ馬建忠ト急先中等ト御ヲ互
相為ニ(憂慮加上)ノ(憂慮ノ)ノ此度ハ日本ノ督責頗ル急ナレハ支那
ニテモ大ニ注意傾聽心ヲ用ヒセリ此皆李鴻章ナルし
如ク洋攻暴ニ注意スルノ所ニテハ
畢竟ハ面倒ニ支那ニテハ面白ク事ヲヤッタ感
想ヲ以テ大長ケ

此ノ尹雄烈ノ一書ハ賜ハル
謹啓所請貴寓啟暗談因他出不能拜光駿然
今回貴邦之變實非意想之所及前年金信使ノ来
幸得一瞻首範而後寥寥久結遐想忽聞此變
貴體罹憂惨禍驚悼之至何料快凌險海来
此寶人生ノ浮沈生死不可測知頃於作卿宅
見令郎聰明絶人今回策其善可知也特呈寸柬
以演賀詞不宣

磯溪先生閣下

尹雄烈拜書

誠恐

昨日拝来年悵歎故切今又恵訊慰喜無量僕逃難
至此厚蒙貴国諸公憂之渡寇食如無恙依幸
即當趨進以聽年前一別人積懷而心極無暇有
誠莫遂悵怏〻當於日間圖進不宣

尹雄烈拝別

貴九月四日

宮島先生侍史

昨夜来手教賀川之事
大臣参議〻陪食相伴
滋安古和書古吐氣〻安古佐〻

僕大〻相〻〻〻〻建白〻〻〻〻

[illegible]

九月四日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤澤次謙ノ姓族ト略称セラレタル人ハ松岡屋ニ
一國ノ名来ル世ニ五年一年天ト三國
ヲ以テ重野ノ序文ノ後一読ス
三條公ノ贈ル所ノ
ものなり
松屋略伝
洲ニ於ル
六月
朝鮮ノ一件日十七第使来ル尹致熙ノ詩ヲ
宿所ニ来ル事情ヲ読ス尹氏ハ
[illegible]

曰別業東望不堪渇想何意今又拜展笑顔無
窮自貴邦帰去後不得不當今時勢由来為
練軍事以護国王今四ノ變雖如覺又不能
有警防ノ策今一決機君臣国辱到此境
甚慚甚
今主上復安王位幸中ニ又幸也頃閲新紙知
知大院君行請国来知何日面主上極廣仁明
唯政府守上書守舊法而一無改其弊此
乃大患不能如何
一宮内出勤

一去る巳年金三圓賜ハル筈
一門屋敷の儀ハ来年迄。上屋敷ハ来年切
一下屋敷ハ来年切
一貢米ハ本村ニ於テ渡し
一去年ハ一起ハ指ハ
七月晦日ハ
晦日ハ言ハ
五十七人ハ
空屋敷ハ
山手ハ

一去る酉年ハ
一去る酉年ハ
而年貢ハ
別段ハ
別紙ハ
旨ハ
不宜

九月七日

晩酌相吉田ト寄席ニ参ル 慶応二丙寅年 [illegible]

近郡

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

去年以来大八洲攻北奥州五年白河白壁陽
〻行賞賜ヲ以年ヲ解ス尹雄烈義士心
ヲ以テ来薩ニ実ニ石州藩の事ヲ
年ヲ以四時ヲ尹雄烈尹致昊ヲ以テ来ル又ヲ
上陸ス第四路ニ策ヲ多新ヲ以テ長州藩ヲ
も長州ヲ以テ四国ヲ尹氏ヲ以テ酷事ヲ以テ薩
〻薩長ヲ以テ初ヲ小ヲ軍ヲ
前ヲ出ヲ遊ひしヲ以テ使節ヲ陸沿ヲ出ヲ
朝鮮ヲ者ヲ北京迄使来ル十月ヲ北京滞留四日ヲ七ヲ
月ヲ帰ル尹ヲ最性ヲ事ヲ為ヲ滞留ヲ跡ヲ十七

遂ニ陸路ヲ来ル

貴邦ヲ以テ清国幾年幾度進貢使又ハ清帝代ヲ
奉ル使到貴国ヲ常ニ式大概如何
尹雄烈曰果然幾百年定式ヲ以国中凡ヲ政事不出清国
進貢云者ヲ以テ文供耳
貴邦開創以来歴史著名者何
尹曰敝邦開創以後別無奇歴史如ヲ有東国史略
史ニ無実事跡今朝ニ史雖国人無知者耳
今史皆藏ニ於山不使今人見ニ
尹氏曰今日九月九日昔人望郷ノ日ヲ余亦望郷ノ意ヲ

ニアラス故ニ平生不好所ノ酒ヲ飲ミテ胃懐ヲ洗ヒタリ
尹致昊昨年六月急先中等ト渡航シ来リ已ニ一年餘日本語ハ
何ニ一ツ不自由ナシ
尹雄烈曰朝鮮ハ支那ニ何モ不及唯不潔ハ支那ニ不譲然ルニ
一昨年始メテ日本ニ来リシニ其清潔ニハ驚キタリ而シテ国庭花木ノ
布置ハ韓清トモニ及フ所ニ非ス亞細亞ノ第一等ナルヘシ且又
那ハ土大人衆ニハ實ニ驚クナリ唯日本ノ進取ノ氣象盛ンナルハ決シテ
支那ニ於テ不可見其平民ニ到リテモ皆進取ノ氣象ヲ具セリ北度
ノ朝鮮ノ變動ヲシテ十年ノ前ニアラシムレハ日本政府ヨリ出征スル
不可免今ヤ政府皆我邦ノ閉鎖ノ真境ヲ熟知セラルレハ即

チ平和ノ局ヲ結ベリ但シ地方民心ハ皆征韓論ナリシヲ以テ北度
金亮漢ト申ス韓人南部釜石ヘ来リ釜中仙臺ヲ過キシニ皆人
征伐ノ勢ニテアリシト申シ越セリ我国王ハ仁明ニシテ国ノ政略ハ
隣国ノ日本ハ同文同類ヲ以テ宇内ノ交際ハ已ニ親シリ我邦ニ試
タリ當時日本政府ハ其外国交際ノ甘苦ハ其證據ヲ取ルニ
国ニシテ皆和親ハ言フモ貿易ハ言フモ彼外国ヲ迫スルヲ以テ我
ニ其味ヲ知ルモノナシ而シテ三韓諸侯ノ抗撃アリ今我カ朝鮮ノ針
路ハ之ヲ日本ニ取レハ其効功期スヘシ見ルヘシ而シテ我ニ日本當時
ノ諸侯ナシ誠ニ其難易ハ同日ノ論ニ非スト見ルヘシ余輩モ
王ト共ニ王ヲ助ケテ開国ノ主張セリ而シテ此一敗卯ノ取リ

吉井庭へ入来候ハ入虎興虎ヲ捕し事ヲ聞て
詳細ヲ伝ヲ事皆未ダ聞ザルの為歎ス
ヲ書ヲ別紙ニ認メ
吉井氏ヲ吉右衛門の為十四日伝ル
歎

十日 日曜

弘庵来書到来
山吉盛典来伝ヲ聞ヲ書也し事也 拙宅
ノ洋行ノ説ヲ光都ヲ路程等の
晩来金杉海水浴場ニ行一泳ス 同

岸山本梅庵来
十一日 晴
朝七時ニ到宗正ノ書ヲ書一之ヲ購ヒ
宮内省出勤
三條殿ハ一書ヲ遣して面会ヲ
求ル ハ今異存ヲ聞ク 無ヲ
ヲ聞ヲ 宮内ヲ 形勢 愛宕 聞
ヲ 記載ヲ ヲ 多 知
面会 書 拙宅 梅庵
ヲ 及 二十三日 出帆 渡定ヲ

即刻同り写真を撮り黄氏の時分より之の仕様を
古森氏より井上氏事を深く
上野行　森山吉中條行沢七郎　高橋無松
阪侯爵　徳川侯爵　牧人ゴ　内閣書記官
十二日　晴
野本村岩五郎　昨日広瀬来
伊地知行　法谷信兼　外務省書記官
書及お礼　安部氏　柳原前光
即ち徳大寺　花房　表帰　井上馨
林　武　阿波　ノサキ　撫象
古森来り井上氏伺鑑の儀　内井水清
法澤氏
黒井吉山　高川製鉄　二ツ木
浮絵　井上馨　北市書状　迎
晩東京　尹雄烈　招欽　内務官
洋食　祝杯　又渡
吉井　同大院君　法谷　稲吉　韓人
西悦　尹敏昊　大院君　一人　親宅
又朝鮮　人　帰り
扶十郎

十二日　雨　昨日

宮内出勤。佐藤常民氏元老院議長拝命ニ付き

大工鉄五郎一本り玄関ニ手水桶口の脇ヶ壁を

三尺切りて戸を付けたり　上段長廊下帯板

を水桶通り寄り不自由ニ付き　外の事と及つ

ゆ　天氣十分ならず　雨降り且時々晴天ニ

雨　館山製糸場ハ一見ノ時ニ

書

夜ニ入天氣ニ成り　且小嵐ニ相成る

宮内出勤　昨夕電報　有り　二十英里の風吹

有りしに付き京東京同心ニ付き出ル

年ニ指第二章死数ハ同心ニ付き　地元

の事ニ昨年第四ニ影ヶ馬車ニ乗

明治ノ水夫棚同ニ付き　時雨ニ遇ひ

帰ち京東ニ帰ラし　昨年ニ一周年

ヨリ如此ニ成ル

宮内ニ上同し　ストツの石臺鏡面ニ水の流れ

濁だり　ニ付き　蓋ニ氣閉藏　ス

ニ年ニ氣　才位ニ大麻ヶ長幸ニ

十二日　晴

[illegible]

[illegible]

[illegible]

長谷寺拝観代五十銭持参
晩方金子屋兵衛ハ来松方ニ行き十八日
より内々業成に付自分儀相済し家業
強き故少々御到着ハ十九日ハ出発致し
十八日ニ成ら日ハ業成之極の一段ニて
儀仕ら及業日記ハ中ハ明日ハ
金子屋ハ南部屋ハ志賀ハ始め
御帰ハ遠慮致し考ら相方ハ五年ものよし
来ハ出ら方ハ南部ハ新ハ義大参ハ
見送ら参ら来の出仕ハ内ハ儀ら方

来ハ外務ハ表使ハ用掛ハ屋ハ志賀ハ八幡
ら出ら来ら来ハ出ら来ら官位ハ野ハ来ハ
有用の才ら
十九日 亡ハ退散ら元来ハ集ハ来ら
無表使ハ記ハ儀一ハ御ハ九ハ時ら異ら
松方ハ出ら来ら松方ハ無御金ハ仕ら方ら
ら来ら
十七日 晴
午前金子屋兵衛来松方十ハ松陸ハ
近川井四郎ハ福島蹴水式ハ来ハ十ハ表使ハ
表使御ハ旨の使

晩来塔三誠来ル 赤坂ヨリ川八ヘ晩食ス
鼈羹鰻焼ヲ食ス 皇居ヨリ麹町辺
焼失ス 黒井ノ本願寺ノ者ト僧侶招請ニ及

十八日 雨

宮内出勤 昨ヲ亡ル三年祭ニ付
庁日板垣天機伺ニ出頭 内二階ニ招ク出 三條大
臣慶喜寺御陵所ヲ当天新墓ヲ
詣新墓ヲ伺ヒ 一同ニ保ヲ詣ル
晩ヲ上野ノ佛壇ヲ飾リ 生死ヲ事ヲ
祈焼香 焼ヲ焼キ法法 祖母ヲ先祖

昨年二年忌ニ当ル八月以来年々事故ヲ
又先祖ヲ祭ル昨年ハ百年年 伊保姉ノ五十年
元治元年ヨリ七年ニ当ル故 文閣ニ
十九日 雨 大
信ヲ昨ヲ揚除 佛壇ヲ先祖 威嚇法 孫 昨
孫寺切院 指先ノ 辺ヲ 磯ヲ十月 東ヲ秋ヲ 僧侶
三人 来ル 法 法 事ヲ 毛改ヲ 姉ヲ 才ヲ 事ヲ
黄門 石 戒 寺 御 ヲ 白 井 ヲ 白、 切 六、 多 坂 ヲ 白
ホ 来 ル 焼 香 法 吸 ヲ 墓 ヲ 墓 ヲ 墓 ヲ
好 年 雨 天 七 取 六 八 百 祝 日 事 ヲ

板垣山縣我輩等の意見の相違の如き
即今書を傳ふ
二十日晴
富岡鄭の何躁急遽の為
正午過下船板垣公伯爵を訪ふ
也爵夫人小山陸軍卿板林先生
中等用住宅、
板垣伯爵と会見
夫用馬作来、大島陸軍大臣
陸軍大臣と会見

一四五十
十五六分
六七時間
十二時分
八四七十五

高橋義雄も著名の一人なり
井上馨侯爵
上毅の為に
陸軍卿一等
板垣伯爵
馬場辰猪
用ふ
屋根
板垣伯
市前と

伊集院幸吉氏ヨリ来信 十六日

同じ

二十五日晴 寅刻第六大雷雨

本省ヨリ出勤ス 遂ニ日枝神社参詣 ナラビニ

雪ノ印刷ノ御礼ヲ為天機伺ヒ ヨリ年上ニ

大阪住徳寺 陰席ニ 市ニ階ニ於テ相撲 相撲

ヲ行フ。言ハ蓋実ニ豊楽ニ 市地ヲ相観

退下 町田勤ニ至リ 晩食ヲ供ス 土産ヲ与

阿氏、如常 伯爵一郎 井上陸奥子 相撲

一同ヲ伴フ

相撲 雨ヲ感

二十六日 金

安田出勤ノ 代ル本省ニ達ス 来世、代理、三撥 礼服 賞牌

着用条例ニ 上野暑祭 詳ノ行ニ 賞牌 及 戴冠 侍

坐ス 共等 伯爵 国ノ興 勤ル事ヲ。 副島先達 ヲ来ル

信義 ヲ 天機伺ヒ 案内 ヲ 商賈 時ヲ 告ル

内ニ階ニ 相撲 ヲ 通行 ヲ 佛蘭西 使ヲ

海ヲ 十ヤ 生 節 相撲 ヲ 戴ス

御 形 原 ヲ 仍 気 石生 五十圓 借用

御十四 五 済 及 嘉 義 ヲ 参ス

二十三日　土曜

[illegible]

二十四日　日曜

[illegible]

一陽丸ハ大抵皆仏領西印度英領海岸
おりゝす
[illegible]
山名作事[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

長政兄弟、又来時才志[illegible]

晩来紫[illegible]城、来吟白山王墓、観月會ノ所所詠

借書 信濃人 [illegible]

拝天神祭ノ記 拝殿 神ノ冥[illegible]

三十六ノ時

宮内省出勤

朝使ニ[illegible]

啓者昨日不相見想安好鄙人遠口未速旬我口為只候問歇

甚ヒ時屑中秋天氣稍涼月色揚輝 桂花放香本當於

紅葉館相邀一飲以頌雅教屑福島縣間懇地方張[illegible]

式 楊方正義起草十屑間不在京擬伊帰到 以稽舊約閣下

請諒ヒ拙著刊成唯尚只校正年恐有誤字 序跋一部

旅中右辭句鄙陋不足博大方ヒ一粲也 若不鄙棄見何

幸過ヒ謹言不宜

黎氏有答書

啓寺書并大ヒ著閑卷賜一展玩色香味俱絶如獲奇

珍也容當細讀始敢作評諸三下西戒口紅葉館へ
約可後筆行容待重九日樓當有東道邀三下及三
住客作登高〻約可身
宮島誠一郎氏至下黎庶昌拜復時秋日
朝幸井ゟ手紙夜晩来高輪南町幸扇地邸に観
月へ来候ゟ来客多一談林士来和納思考
ゟ
[illegible]多ニ而安〻来只今迄板橋不参
幸井翁宅へ来ル稲不来光明寺前ゟ来
明月海上ゟ出ル中秋ゟ暑大〻如

寺島上野へ行紅葉行要事ゟ来上野演ゟ
題劇十花やゟ太平洋ゟ来ル
松方へ明ゟ和島へ出張ゟ
二十七日 水
明ゟ大郎ゟ 熊谷ゟ来 庫ゟ氣象報 内務
陸奥
板垣氏ゟ屏ゟ業ゟ鐸ゟ 工書ゟ贈
浪女ゟ長 板書ゟ
[illegible]氏来 昨夜ハ山王ニ祝月見ゟ 信也一二[illegible]
[illegible]文棟ゟ話ゟ

宮内出張

[illegible]

[illegible]文様ノ書未ダ[illegible]上[illegible]ヲ[illegible]中[illegible]

[illegible]ヲ[illegible]一[illegible]観月[illegible]

二十八日晴雲

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人之方ハ始ヨリ無然ル時ハ國府ニ大臣ヲ中務ニ又職員
令ニ御之ハ内ノ所ノ外ニ小役所ヲ創ニ設ケ如シ此ノ
如ク嘉階ヲ定ベシ　現在ノ國府ニ大臣参議脇侍
上中前ノ親王ニ任セ公論ヲ之ニ問ハレナシ
中務省ヲ置テ紗更ヲ昭ラカニ定ル
ヲ以テ上野不忍池ヲ能ク見ル
欽ヲ牧ル田ハ海ニ面ス
月見池ヲ以テ
二十九日時
此去月ニ云ヘ
此ノ時ハ
十二月ニ
北条義時
此ノ時
此ノ時ハ
此ノ時ハ
此ノ時ハ
此ノ時ハ
此ノ時ハ
此ノ時ハ
此ノ時ハ
此ノ時ハ
此ノ時ハ
此ノ時ハ
此ノ時ハ
此ノ時ハ
此ノ時ハ
此ノ時ハ
此ノ時ハ
此ノ時ハ
此ノ時ハ
此ノ時ハ
此ノ時ハ
此ノ時ハ
此ノ時ハ
此ノ時ハ
此ノ時ハ
此ノ時ハ
此ノ時ハ

[illegible]

三十日雨　土曜

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三條公より養法寺[illegible]序文并義[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十月一日 日曜日 五十七八度 晴 寒暖計六十二度

[illegible]

[illegible]

[illegible]

塵埃也無多氣息定要塞天地至大至剛
一絲一粒皆天地化工皆父祖苦創皆織女農夫辛力當
思如何報答一言一動有家人瞻顧有知交察識有鬼神
日月照臨當思如何自修
孝悌忠信禮義廉恥是撐天八根大柱慈愛溫良
敬讓謙和真是世樂國神方
諸言莫多恐怎有據物貪機謀要少怕尸神默
告天君

紫微花落木犀開擬向南園把酒杯生怕秋天
連雨紫微無復加人來

時方月 朱

黎庶昌氏詩序ヲ讀ム氏ハ桃株先生ノ子
午後晴時ハ雨止晚聲東歸鴉ノ聲ヲ聞ク
嗟林間雨聲本要蕭疎ヲ以テ
言ハズ　午後ヨリ晴
時花ハ時時ニ降ル　陸天ヨリ風吹ク神ノ
花ノ如シ　風雨汁ノ如ク風雨ノ如ク
男女忠勤　花ノ如ク
上韓生ノ如ク
退下ノ家ノ如ク家ノ如ク家ノ如ク
拜謝田島主ヲ呼晚望ヲ展ス

三月廿日

安房出郷、元治元年、備中征討ニ付、
上京、今ノ好機会ニ乗シ、方面ヲ定メ、大雨高中ニ屋敷
上野ノ一隅ニ、樵木掃除ニ人夫
ヲ以テ、対馬ニ、吉田ニ、原氏ト上京、下條和泉
ヲ以テ、対馬ニ、吉田ニ、原氏ト上京、下條和泉
スル上京、辞表、蓄ヘ、明ノ十六、老公ノ地、森出来
原氏ニ、辞表ノ先用ノ
下條氏ニ、辞表ノ写ヲ、家国都ニ方ニ、
ハ、沖縄ニ、百一枚、下條ニ、百ヲ、
ニ、上屋敷ニ、○森氏、慕出来ル事

義盛、一和上五分書、
寺僧、時ノ第、
旬ニ、
五年、
寺ニ、一同、
年、
議、
寺、
刻ニ、
今年、陳、

三條公閣下へ

誠恐謹白

今度長州より書翰差出候段罰後見候ハ

ヽ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

拜啓日前呈拙著不知經電閲否僕於西国交歓
〻初為此様事聊有微意巻首請何呈侯序今
將獲閣下一序以光燿焉未若華賜大手筆冒
助僕素志則不朽盛事於是乎成亦修聘〻一端
也希察焉不宣
癸丑大人閣下 五月十日 吾 宮島誠一郎再拝
[illegible]
前日之院[illegible]宣[illegible]連名[illegible]
今[illegible]藤象[illegible]
連中相會素〻吾同氏之公園内紅葉館招待[illegible]

[illegible]相同[illegible]同意[illegible]同日午後四時[illegible]同館御賞[illegible]
[illegible]程致希望[illegible]也

十月二日 東久世通禧 大給恒 鍋川潤次郎 伊丹重賢
三浦安 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[

一金百二圓
九十錢
三人ヘ
割り
三山五面
戎
拾分科
二十錢
蕎料理
茶戎
中酒
廿両
廿五両

三陳大島安川馬屋敷西山等田中家嘆地図、当方
不来方海辺岩村屋敷秋月帰宅之事　永井蔵
元仙元表陸奥黒田津田、大坂の伊川淵二大坂帰伊川安兵衛
盤子屋敷帰雲、平山世良、本間紋蔵北澤、重野、村田係
金彩屋泉、海路　稲荷一本蕎麦屋　江戸紅葉屋
古方　金　日雲　福田陸奥　村上紅太郎　浦賀
宮田出勤　伊勢屋　長崎
明日吉井上京　明日第二之路　明日
第十四日　川口屋　清水屋

伊地知村
吉井屋
伊吉園

右故石谷因幡殿御様ヘ
当伊地知郷様和吉井氏ヘ
晩方ヘ伊地知方ヘ
一ツ　御様ヘ
当日金陳ヘ請状書
金陳松平伯耆風
城白雲路　珠蘭　椿月
稀解　澄江浄如
七日土産ノ時　晴
宮田出勤　明日

競

大阪信貴山ノ三巻動物信貴ノ烏獣ハ高僧ナリ
巨勢人金岡ノ風雷神不動ノ絵ハ傷ハ不思議ナリ其他ハ略ス

西御ノ野サンヒルニ参ル

午後妻ト上野ニ参ル吉井伝不二庵ニ立寄ル午
餐ス 傳書院道具ハ多キ中ニ先ツ伝教家ノ山水ノ大屏
ヲ見る 絵画ハ一部一覧ス 書ニハ山亭ニ休ス家
黄昏帰宅 夜ハ早ク床ニ入ル 晩餐ヲ終テ休ス

切手 三保ヶ原文 小輝毫大小 誠義事ヲ
遠ク行ケバ 観音切手五銭

八日 日曜日 好晴無比
朝食後三保ヶ原文ヲ一覧ニ入レ 遠ク行ケバ
ヲ意気揚々 徒歩ヲ以テ 三保ヶ原ヲ

弼ヲ訪ヒ 伊東ヲ訪ヒ 帰宅ス 柏屋ニ午餐ス
昨年ヨリ病気ニ 徒歩 細ク 清 ヲ 公園ニ
ヒ宅ニ多ク 茶ヲ飲ム ヒヲハ 詩 ヲ 詩ヲ
ヒ 夜ニ入リ 七草園 散歩 秋 ヒ 花ヲ見テ長 ヲ
帰宅 就寝 吉井ハ 岡山 酒 信 花 ヲ 枯 ヲ 体
ヒ 屋ハ 病 所 卯中ヲ 一 ヒ 風 ヲ 不 安 ヲ 留 ハ
日 病 ヲ ヒ ハ 男 ヲ 病 ヲ 快

九日 晴
空思 勤 松 ヲ 書 ヲ 岡 半
初信 ヲ 伊 ヲ 東 ヲ 散 ヲ 業 ヲ 多 ヲ 作 ヲ

前の鈴廣屋に行き[illegible]
別紙印刷者[illegible]
[illegible]
[illegible]
十二十三両日は華館一居を俺[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

謙信公御末裔 たかを天正の頃底所の所生 兼光

兼氏 大和守初代仙台藩士 後の一日市川住兵衛しづ山 行光 子孫 國俊 五歳年

十日

宮内省より御招の書 宮調之奉

侍従公使より有一書信

啓者本月二十日即中歴重九之期請閣下

於是日午後兩點鐘遥赴上野公園内精養

軒作登高之會并邀有貴邦名士數人不敢莫

也乎此敬頌 官祉 黎庶昌拜 訂 八月廿九日

宮島誠一郎閣下

詩序亦擬於是日交卷又及

午後勝氏より訪ふ玄宅より黄君の詩集の序都

門廣之寄 道四玄宅ヶ坂老母見て更科蕎麦を

松谷と大笑

夫より税所が家より去年在前 此年 とを 話合ハ

醒上上野より競進 勝氏 論者の事 ヶ坂

山競進 書 性し國書し家廣し歌し 所八ヶ坂

日本し義術し和一茅し 詠利し 国し 事 廣 迄

ヶ年 去り 慕 ヒ 所 玄 後 玄 し 作 地 海 千 長

ヶ年 し 下 條 一 四 郎 し 富 貴 都 長 ヶ 年 士

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十五日

[illegible]

[illegible]

啓者本月十五日金閣紅葉館邀閣下

而頒雅興請是日下午三點鐘如期扛高軒伏請

明答準不宜十月十日宮島誠郎拜言

黎庶昌閣下

再白昨日辱華簡敬覩芳者以當趨高館以陳

謝忱拜

宮内省出勤[illegible]風雨[illegible]木葉必[illegible]

奬崖退下公務能[illegible]勉[illegible]石[illegible]行[illegible]

敬啟

來教誦悉十五日紅葉館約晴則赴雨則不赴

若此約專為鄙人而設請遂作輟以俟他日何如

宮島誠一郎閣下　黎庶昌拜覆八月廿日

[illegible]

十二日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

昨朱子雨之事ハ入洛
日思寄田氏ヲ以使ヲ来相大原之事
異一区寄田車ヲ伺ヒ福島縣令ヲ訪ヒ一書
差遣ス相談ス

十二日 雨晴

槐上雨霧ヲ分ち一詩賦 黎侯ニ贈
満城秋色菊花香本約相邀把酒觴半雨半
晴紅葉館惱人天氣近重陽

今日以天氣不佳頗憂閣下之来昨夕紅葉館
主来告曰已為余貸與百〻享帷且沽酒饌謝
絶他客而閣下若賜舊誼則酒肴一時ニ盛事最
難風雨故余ニ向為閣下仰懇望意
黎薇齋大人閣下 十月十三日 宮島誠一郎拜

日出ニ朝餐呈ス
客尚未出勤午時過下地屋子ハ出来事
余ハ仕方ナシ候相屋ニ指ス事ハ
ヲ以伝ヘ工ニ出ル
来ル能ハス遂ニ中止ス 和股書
用二人ハ来ル屋ヲ日休ハ
関ヲ以伝ヘ書ヲ

我自今先到以迎閣下請一言来又来

黎公使閣下執事　越島再拜

又来　二十四日答

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]傳聞齊色司人天氣近重陽

金子屋[illegible]人来[illegible]

誠日金子生有心人我與松方頗愛之曾設興

賈園旋甚至今仕大藏省請眷顧

松方正義薩摩鹿児島縣最與故大久

保最為心契

[illegible]松方[illegible]事乃海[illegible]

誠曰僕甚喜今日交通此為來世親睦之始又

必相[illegible]僕之交到今日並手文事自今而

國互謀利益大願也　自今[illegible]

松方[illegible]

[illegible]

松方[illegible]

[illegible]

[illegible]

高有池鯉こくを焼
こくを吉井より獲候ニ鴨乃数段なる晩食気
あり 昨夕隣家方層京知る家旨五合
ヶ谷おだん地蒲鉾出ニ四ツ 紅葉版
ハ時過ニ出ル 上杉公風様ニ華敬し
能ク
蔵会議 上京成ル 真綿七十匁 銀 於野来
晩来り吉井ニ集ル 伊地知氏 稲垣氏 来晩食
秋十時 決相 おだん地大花ヲ
十五日 日曜

こくを焼 十時ニ成ル 上野ヶ谷ニ
(上野猪書を一覧 吉井ニ逢ス
浅草ヶ来り 菊人形ノ祝ス 和田い来り 形成来
祝ス出ル 三十四年ニ 銀十三 晩食 同勢
中成 来る 石井来 大草成ル
十六日 晴
吉ヶ有 相撲 日 修ヶ成ル
晩来 去 成来 大下 水石 庚ニ 祝ニ 及ス 玉屋 菊
ヶ 肝要ヲ 記
十七日 雲 四来 四両

午前雨中に出勤
延引御書を受け日報を渡す
金子虎蔵より御伺ひ書
を出す

晩方より雨
墨摺

十七日 水曜日
宮内省出勤 松下見林異称日本傳を見る
夫れ非常の事 稿代一覽書
退下 印刷局より三枝に面会 三條公に序文の

軍事陸海軍の報知 昨日陸海軍より
届出の旨 伺書

陸軍より 吉藤より 根本中将 西園寺内務
大臣に伺ひ 出張 米を石巻内へ
鴨一羽七十銭 ヨリ来る
下水用に杉板 杉板ホ深刻 夫に帰
十九日 晴
宮内省出勤 文部大臣 内務大臣
天皇陛下 出張 宮内省 侍医 出張
宮内 朝鮮御巡幸 侍医 朴永孝 宮内

午後二時朝出
退下相意社海軍館ニ花房公使ヲ為伴花房
ヲ招待日韓兵船ノ祝宴あり閉会ノ後遊泳
渡部金野大島兵ノ輩ハ遊ヲ
谷長岡海軍ハ本国ニ帰ル金二円差出
し外精々付き海軍花房ヲ送ノ所あり
外急用ニ付き海軍ニ乗ル
二十日晴
一空内務出勤
一花房公使来ル相談ノ後九ツ時

[illegible]

[illegible]

[illegible]

堪爭錦楓今日登高秋色好海天霜日送飛鴻
重陽詩酒歡同異域嘉賓在眼中不負皇華
歌使者即將佳節醉秋風籬邊脫帽先尋菊林下
傳車共賞楓北地明年應會飲憐君負說似
飛鴻

[illegible]有微寒落帽秋風醉
知[illegible]重陽[illegible]在眉間畫歡此際憐君
[illegible]

新井白石著　經邦典例　冠服

二十二日　日曜　朝曇
早起拭方口一新
[illegible]
[illegible]
[illegible]

小生ハ九月廿五日ニ帰京ス
新十六間ハ近日ニ
開業ス又貴兄ニ
ハ都合次第
御出京ヲ
願ハ
十月二十二日
桂
沖
○
醍醐桐木六十六本三ヶ金三十五両ニ候ヲ
遣ス九月十六日ニ桂

醍醐ハ過刻差入来十八日ハ書ニ中候ニ付
義周様ヲ除ク旨承ル十九日ニ文三年祭ヲ
十八日ニ遣庭相成来客ニ受ケ候ヲ
合過刻十八日ニ何ト得会ニ申旨法名申
都合淀ニ
度二十四五ハ
ハ
桂
沖
桂方ニ大人
九月十六日
沖

二十三日

宮田右出勤　金子庄兵衛の来る之談判書記

名ハ印刷局ニ而夜ル

第壱行キ金子国ヲ通知ス

板印材木屋ニ為ス古森ニ通知木和検査

夜長政并長井森市入来酒飯ヲ出ス金子伺答来ル

長井柳（留め来る）長井金ノ人物大ニ感ス

二十四日

宮田出勤　金子庄兵衛

大西横ヨリ上野公の報告原書到ル

二十五日

風邦ヨリ感ス前長井来ル　坊屋　金子庄兵衛来

当坊ヨリ家ヲ隠ス事ハ隠ス事ハ隠ス事ハ

利第一番慣例　第二南北二島分別　那島

隠岐ヨリ報ニ家中ヨリ公ヲ願ヒ

二十六日

不平保養　夜長政来ル　宮田森中保山吉原以下皆来ル

二十七日

上野ヨリ勉強ヲ来ル

二十八日

宮内出勤　○閣議　午後蚊帳陶器ヲ書生
持ッテ来ル　ベンセンヲ買ヒ
二十九日　月曜
金杉屋長次郎　稲田吉井伊藤ヲ訪ヒ　晴天雷雨
モ有リ東方奏　菖蒲那須雷光大ストカワ
三十日　火
宮内出勤　正午過ギ御祖　和宮様ノ御ヲ賀ス　正午車ヲ
進ル　接客室ニ休ス　新宮殿ニ　伏羽ヲ　ベンの故ニ
勅ヲ奉ス　晩晴　閣議　四谷区上有栖　無筆

三十一日　水
宮内調　吉野公使ヲ訪ス　榛原ヲ徴ス　雷丸
午後拝謁ヲ奏ス　入ノ帰ル
六月一日　晴　木
宮内出勤　伊藤ヲ訪ス　検査伊藤ヲ訪ス
品川伊藤ヲ訪ス　山吉孝次郎ヲ訪ス　大友新潟県役立　宮崎県ヲ
モ　山吉ハ勅奏ヲ知ル　伊藤ヲ訪ス
支那公使ヲ訪ス　書翰
市兵衛ヲ訪ス　浅野氏ヲ訪ス　車ヲ雇ハス　品川ヲ訪ス
帰宅　午後拝謁ヲ奏ス　雷丸

山吉盛興父子　吉弾右衛門尉
二月晦　木
出陣　巳一下　鎌倉後二十三郎　寺尾左馬允　二宮飛騨
勝沼　松木　稲荷森　大鳥居彦右衛門尉　溝口
静岡行　賀茂郡　伊豆
駿河　東下総国　百六十騎
二月　義時　金
天長佳節ニ付　宮内右京亮
遊宴　武蔵守　北条
拝領　法花経　酒饌　武蔵　山田次郎　吉原市郎　北条
大磯　小笠原　大山　比企　郎　高麗
勇　命　長沢　刀剣　臺　北条
中井　遠江　松方　紅葉　長尾　大学
所　殖田　殖田　殖田　殖田
松方　吉田　大学
横須賀　上野　上野　上野
横須賀　上野　上野　上野
出陣　土屋藏人　友
高麗　土屋　刀祢崎　名刀　親　梶原　斬

[illegible]

板倉弁より岡部上京の[illegible]

帰宅[illegible]

吾風流

安達より来る長州[illegible]の[illegible]

下関[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

六日晴

[illegible]上[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八日雨

雲州出郷ニテ雨天ニ付印刷の郷舎ニ延引

夫ヨリ 姫路ヲ過

青山一日逗留行ント欲スレトモ

雨天ニ付延シ姫路ヲ出ル 幸龍寺ヲ過ル

九日

六月出郷 印刷局ヨリ人ヲ遣シ 稲垣男爵文ヲ

添ヘ坂市ノ手ヲ経テ 木村ヲ招キ

坂 伊勢ヲ経テ 国郡ヲ経テ 青山

国郡ヲ出ル 鳥の三位ヲ過ル

有金事 播磨ヲ通ル 以上の所林の陰ヲ行ク

印刷局の一名焼失ヲ言フ

伊勢ヲ出テ 名古屋ヲ過ル

十日晴

駅伝金子ヲ受ケ中也モ一ツ 伊勢ヲ出テ 長井ヲ過ル

門屋 義遠 坂門屋 大木 光和 義常 後藤

金巡の廉ヲ賜ハル 大垣ヲ出テ 暮

伊勢ヲ出テ 桑名ヲ過ル

十一日

出郷 播磨ヲ出テ 暗の沢ヲ過ル

陸奥国分
激ミテ隊隊
ハ及ン
遂ニ南奏ノ
強迫ニ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

十五日 兩中 琉球漂流書きこのこと 宮内より加藤[illegible]
[illegible]中[illegible]遣 一書 煙草[illegible] 昇級[illegible] 兩中 伊豆
[illegible] 伊豆[illegible]諸[illegible]

十六日
[illegible]徳[illegible] 煙草[illegible] 煙草の賜
宮内省出勤 番[illegible] 到 但昇級由 右[illegible]人七昇級
[illegible] 但[illegible] 十七圓 [illegible] 二十圓[illegible]
[illegible]

十六日
宮内出勤 [illegible] 山[illegible]行

齋藤[illegible] 山形[illegible]
[illegible] 下條稅[illegible] 野[illegible]

十七日
十[illegible] 婦[illegible] [illegible]稅[illegible]
[illegible] 四[illegible] 知[illegible] 稅[illegible]
[illegible] 知[illegible] 金[illegible]

十八日 [illegible]
宮内[illegible]
田[illegible] 人[illegible] 二[illegible]
常[illegible] 八[illegible] [illegible]

夜月色好し鳥ノ啼ク作ル別ノ詩ヲ寄ス山信

十九日晴 日曜

朝食ノ後日ヲ送ル仙ノ如シ掃ハラフ庭

午時西京ニ立ツ乃チ京ノ東仏ノ寺ニ詣ス山ヲ

打眺ムル所ノ景ハ陰ニ作ル

去年先生ト共ニ川ヲ遡リ帰ル

西京ノ方ヲ仰ク高ク

雲ノ中ニ高ク聳ル

夜ニ川ヲ下ル二人ノ王子ト

東ノ川ヲ居ル年数経ル

後ハ一見国学生徒ノ

世話ヲ浦ノ仮載人車ニ乗ル

車ヲ捨テ一ツ新公園ニ

如意別荘ノ西ニ寄ル先住ノ夫ト浦和驛ノ別ル

日暮ノ方作

一年一度偶離家、寂寂松蘿傍草鶏、

寒鼓翌東窓猶未到晨鶏、

二十日

終寒風甚ク桶川迄藩主迎ヘ来ル運搬ノ工事ノ

景況ヲ見テ家ニ帰ル山ヲ眺メ来リ桶川駅ニ午後

乃チ藩車ニ乗リ川口乗舟王子ニ日暮花鳥ヲ

色ヲ尋ル秋景ヲ八ツ夜詩ヲ綴ル。去年財政ノ如ク

二十日 晴

宅調御 好銭を以て糸を吉井へ持参見 帰宅後糸を下水

巳刻 第五号糸を四十圓にて買ひ

印刷局へ糸三十圓を印す

家内揃ひ糸を吉井へ持参 仕舞

二十一日

家内者共揃ひ出掛

晴 午後 岡山へ 法会館へ詩社

地長改正の原木村齋藤氏来訪 食事仕舞

二十二日 義時

好吉井へ詩を作り送る

大八黒井へ行 成十者天 晴 最初の鈴塩 寅 卯信

夜翁来 植半 三ツ半 起

二十三日 晴 良久不相見 副宮頃生想福祥多 一昨日 叩華館以際晩故

不能頭雅数所携 悩什 願暇詳 拙則幸甚 以将趣仰

朝法公使へ書 不宣 齋先生

午前 召集 地方官会

懇談 会員演説 会員陸軍

不和 光 兵戈 降 降

商議 書 降

信濃ノ鐵ニテ拵来　金ヲ出シテ買ヒ　又佐賀ノ事

二十四日　土曜

警察ノ鐵ニテ拵ヘタル　○堀殿ヘ行　○三島ノ所

夜齋藤ノ會ヲ木村原業ト木下飲

二十五日　日曜

一ヶ月ニ付　一朝ノ拵ヘ　義学人除名ノ書付ヲ長谷ヘ渡

ス　田邊中條ヘ渡ス

一紅葉屋ヘ行　江戸賣盛ヲ御ニ　堀内

行ヲ以　税所ノ伊藤氏ヘ　桂ヘト長谷ヘ書ヲ

付テノ話ヲ

二十七日　晴　四十六ヶ

昨三島ヘ話ヲ付　前ニ於テ　新橋海陸軍　横浜警備

ヲ為ニ出勤ノ者ニカン様ニ拵ヘ　書ヲ渡シテ

ヲ以テ人ヲ以テ定書ヲ渡ス　扨ハ事車ノ内ニテ

何ヲ考ヘ

昔　英國ヨリ以前　澳ストリヤト　金ヲ出シテ　四度マデ　初代ナポレオン　佛

國ニ戰ヲ為サレム

今　俄國ヨリ兵ヲ北ノ古境ニ出シテ　英ノ印度地方ヲ窺フ　英何ノ策

ヲ以テ之ヲ應ズヤ

英國ノ　ブラナル名ノ運河ヲ手ニ入レントスルヤ　其初メハ會社ノ物ヨリ

英ノ通船七十艘　諸外國船三十艘

二十八日

朝會計取調　富田留遥等

此節朝鮮使北京在京中　布帆ヨリ公使来京中不日帰国ト云フ

赤島在米州堡　森在倫敦　上野在濠斯國　柳原在魯都

横本在清國　青木在德國　伊藤在獨國　板垣後藤等

在佛國　有栖川親王在英國

爾来ハ時々出張ノ法式錢　サンマニテセンヲ買求メ候

夜ヨリ雨ヲ降ス

日青柳長次郎ヨリ書ヲ送ル　家計ヲ談

花房蜂須賀

岩倉
西園寺
奉儀
局ヲ

二十九日　晴

富田留出勤　朝第八時　献上物ヲ見ル　人參二分　相石鍋四ツ　筆又ハ扇子

誠ヲ質朴ヲ

岩倉西園寺ヲ陪席ヲ受ケ西園寺出頭ヲ煩奉儀局書類

ヲ示ス許ヲ乞ヒ即チ一冊切リヲ乞シ心ヲ中ヲ受ケ即チ日本

ノ御地ヲ御拵ヲ問ヲ本ノ小ヲ御ヲ即チ此冊ヲ乞ヒ

盛慶殿三條公ヲ人ヲ掛ヲ盛慶殿ヲ少ヲ岩倉ノ

ヲ上ヲ東ヲ京ヲ西ヲ京ヲ如ヲ何ヲ軍ヲ以ヲ政ヲ

ヲ為ヲ○市ヲ場ヲ一ヲ年ヲ御ヲ留ヲ京ヲ

吉田松陰神社ヲ祠ヲ松陰ヲ事ヲ記ス

相又一杯あゝ飲ケ勅答書興夫より最初の奉事鴨一羽
を買ひ三島通庫より菅獄所へ贈り訪不来事より鴨代
一圓より
郵便局より一足ゆ水足ゆ七錢不立
木村氏来る
陸軍四聯隊境加沙弥国附益部屋千等円の定額
北海道より一聯隊 仙台より二大隊
三十日晴
早起吉田清成より第一不運日晴より駅馬に乗り吹却大
久保家へ参り西郷等と談合す。憲法編纂起原講義

元田翁到り昨夜より滞在
一条、佐藤、安井、伊地知、[illegible]
神[illegible]
[illegible]
[illegible]

宮田勤　吉井に一泊之勤ム晩食ヲシ吉井ヲ除リテ
怪庵ハ余ニ与ヘタル
揚字敬ハ中老ー昨来来候ヲ以事業候
伊地知ヲ入択爾来業封内
揚字敬来庵の屏風の安西の鶴の絵ヲ以ト言ヒ此家
牧撫ハ鶴ー大概(伊地知)所の字ヲ頼ノ能業ヲ与郎
京山氏の来訪ニ一双五十圓の價ヲ言フ
陸賊誤ニ入ル　詩文候書候ヲ
八日晴
発ヲ大輔ヲ訪ヒ黄憲の肖写来　徳頼庵

出京
二十四　晴　陽　青
十五日
五月八日　伊地知
十二　十四
伊地知ヲ
ヲ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

目録

（朱印 黄遵憲先生遺墨 日本東京 宮島誠一郎）

一 写真大帳二冊　一 写真大板百枚

一 写真小板百枚　一 義士紙十帖

黄遵憲先生執事　[illegible]年二月廿七日

[illegible]黄遵憲[illegible]

[illegible]

明治十五年十二月十日宮島誠一郎謹啓　公度先生執事

横濱別[illegible]閲十月末今將盡南來絶音流汗遥瞻

白雲如接面語因知海上無恙青來清書中具載

任地情況心事所存二詳卷却說今年東京恵

政流行家苦驚防[illegible]有朝鮮之變一時朝野騷

然幸因轉廷照法解結以得兩邦今日之無事遠境

想想勞貴慮余與先生當為亞洲經畫大勢自後

野

頑嚚視余輩意皆為仇讎誠可慨笑今也得逢路
必當与西大聯絡歡懷先生之言曰舊日黑水西湖
花柳追尋無日不思之展轉於懷其言有足多者
余亦同情每居柳街文字之飲不能自止曾所覓山水
写真余直屬印刷局辦之唯古器物之圖未入照不能
應命本欲托蔡氏以寄贈貝之閑此人却之神之為遂
引今有移居內天輪寺使布哇道係來港因附
托之請次查收（写真大板百枚 小板百五十枚 以上所價六十金 揚州四百金）
他如有覓則次便報之可也新使蔡公亦係例
辱交廉與法未半同閑念前月枇杷島公使壽

牲著郵不知達否明年應謀量數部余与君之精
神長在卷中同一不朽柳余之喜酒君之喜酒必何之
勝副島吉井伏野他所交之諸君子余代為請安筆
不盡情臨風神馳敷冬愛護珍重
於六葉之間之灯記
余居西國間之交際之心有少寸心不忘也如
牛好四財印刷局元田講沢吉井之之稅所日斷
於中一部十百之部多

十日　日曜

好信亦奏議之訪問事之訪問之酒氣之訪之山

切ニ宅ヲ訪フ午餐ヲ辞シ葡萄酒ヲ喫シ
税所萬之助ヲ島勤ノ御得喪ニ婚子ヲ像仙ヲ会晩ヲ
夜ハ隔級萬信ヲ来ル午後一時ヲ止ル
十日　教案起草　早起ヲ任ル　斎宮津人陸軍少尉ヲ来訪
丹波ヲ帝国原城切迫ニ初日三月書追悼ヲ作歌ヲ
物月風永ニ轉ヲ物ヲ
宮内出勤　井上参議ヲ逢　内閣所部見ル
印刷局ヲ来ル　三枝面会　番板木ノ昨ノ木材
平ニ渡ル　午後仏ヲ平ヲ勤　教案及二十書起草及
一時ヲ大平ヲ帝ヲ言ヲ閣ヲ
即チ貴兄ヲ上ヲ
ヲ
ヲ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]九月末四郎[illegible]井上山駐[illegible]
[illegible]
清國[illegible]陳[illegible]
[illegible]書[illegible]
[illegible]
[illegible]

北軍傾
院陽事
行ヲ郵
為ス抵抵
セハ若朝
迄ハ戦爭
ノ決心ヲ示
ス故ニ源平
煙幕ヲ増
統ス

ヲ友沖縄縣令兼任ト為ス仰付ル
ヲ吉井ハ同伴ス縣地ノ事ヲ委任ス
吉井曰ク此ノ度ノ事ハ重キ事ニ和海
ニ陸軍ノ海ノ防ノ為ニ
想フニ庭ニ吉郎海防御ノ
軍艦ノ凍可ノ外ノ
砲臺ノ所ハ徒視スヘカラス
院ノ注意有ル
縣治上ノ事ハ
吉井 四月 佐賀

内ノ為ニ
備ヲ示ス
外ハ移ス
為ニ
総ノ力ヲ
傾ル

朝鮮ノ
江華島ノ
形勢ヲ
所ニ
ノ
ノ
ノ

浮世書肆茶家宿屋等ハ月番乃義
何黄二氏の書翰ハ昨日書了
晩来陳世友ヶ性我洲ヶ林ヶ拔き病床
保科ヶ一出ヶ出了
十六日 土曜 曇
早起茶菓喫
一北澤人来二年ヶ長崎鍋島ヶ為ヶ不語與
亞墨ヶ使し亞和亞蘭陀ヶ防備ヶ為ヶ国交ヶ
拔形ヶ意見如何ヶ問ヶ上ル。沈嚴章ヶ筆ヶ
一日ヶ元田仮構ヶ國憲起原論ヶ稿了 上野精養軒

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十二月十七日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

輕出產者多之事 [illegible] 多之 [illegible] 一物所[illegible]

十七日 晴

[illegible] 醬人來 汁繩縣ノ [illegible]

昨來 柳屋八百助ヲ千枝清條ニ呼來 [illegible] 病森不會之

宅長政ノ來ル 後入夜帰

十八日

宮内有不集 [illegible] 晴

十九日

宮内有不集 [illegible] 晴 [illegible] 行 [illegible] 井ノ代 稅所

行 [illegible] 入 [illegible]

二十日 晴

宮内有出勤 [illegible] 揚 [illegible] 教ヘ [illegible]

楊曰 桃李杏 柑柚橘 枇杷 梨 貴邦不及 敝邦 米蔬菜

羊肉豆有長短 牛肉味短 此有故 我邦非老而疲者不殺

ヲ 雞味ヲ美不止一事 我在此不喜食雞 貴邦所產味短

烹法多品 僧事 烹數品請以來食ス

又曰 貴邦勝我邦 亦不少 國亨 我邦非不有 ヲ 但非

大有力者不能有ヲ 貴邦無論大小皆有 國此奇

及街道亦寬廠 非我邦所及 樹木似而勝我邦

我在此ニ度 [illegible] 忘我帰ヲ苦 他日帰大不慣

貴邦有校座如我邦好俗之夏日不能入戶我
想此地如不異國我欲移家
我家所住為湖北第一激素飛清此言事水到
此地清徹眼可見其底
又曰此我館中新到方先生好金石亦好詩文
先生可與傾談姓方名濟益號子龍
誠曰先生貴館所學何職
方曰公使安川詞翰侧旋詩或兼文又公文書翰
誠曰先生貴何
方曰書徽省鳳陽府定遠縣人也

誠曰前請教公使撰拙著養浩堂詩集序
見之乎
方曰大著尚未捧讀著聞敬同事姚君道及甚
為佩服
誠曰姚好否
方曰勤於輿地之學
誠曰以何月蒞貴邦
方曰前月十二日乘廣嶋丸至此由本國薩州至上海
航海
誠曰出洋此行為始乎

方日在本國東海南洋頻て往来到他國則此次為始
誠日夕留之幾年
方日三年期滞帰本國。今日為貴国御紀君作
印譜俄一幕相茂閲清教
[illegible]
留沖縄ら陸路東尾崎ら指海岸ら別て岩村面倉縣令を
以為め進退固窮し惜ら
三十日　木
[illegible]
[illegible]興[illegible]改名改[illegible]
[illegible]亞脇角仁ら長岡鍋島信
[illegible]
[illegible]
[illegible]

方日在本國東海南洋頻て往来到他國則此次為始
誠日自今留学幾年
方日三年期滿帰本國。今日為貴國御紀君作
印譜俗一篇相日芳閲請教
芳答ら八方勢ら子級中傳他日為貴国皆下手行書序
留神縄ら陽来屋嶋ら指南ら別て岩村田食料ら
以為め進退固窮し惜ら
三十日　木
宮崎出発　紀齋来訪　請書ら扇ら揮毫敬ら村ら食ら
ら興ら為し改名改字ら墨亞脇屋ら長岡鍋島信
盛ら寄ら北川為宮ら始ら出ら使ら上野精養軒
ら成ら為す　宮千城ら来訪　鄭永寧　筆鑑ら拾い丈ら切ら
設官会所ら一書来為す　紀齋来訪　昌ら鑑ら書七
傑作ら示し業談ら
時ら不忍池ら桂荷衰柳ら景ら為ら蘭亭ら
陽陶醸ら造ら松ら乃酒宅
二十日　芳溝益来然入来　書ら業談移時ら去ん
午前ら子ら海島女師範学校ら巡視ら
家ら為ら日本御上杉邸　巡視　昨年ら南京ら
五周年祭ら祝ら　宮前ら長崎ら長義ら作

九山義之事
別紙西首と言渡る
金杉清吾氏
安場山吉
会飲余儀の病疾
養生宅
二十三日 晴
昨来微熱咳嗽
不果行
晩来長次郎
身上伺
陸軍一節
青木大保
陸人初め
[illegible]
[illegible]
[illegible]

あらしの如し[illegible]の[illegible]
[illegible]人[illegible]日[illegible]義を[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

二十四日

朝十一時浴金杉温泉備一室而三浴其間編纂院
球之事好場民来浴共談以時及日暮而帰食會愛
宮市街為蔵熱川帰如湯帰家呼針醫山本治病

忽傳火警火殺霞関有柳川[illegible]
仍直見視外務卿井上官[illegible]
井三峰親所篤在吉井 今朝吉井誘予遊浅草
以病不果

二十五日 月曜

照宮内有呈不参状養病晩來方潜蓋來談
比養辭去午前書雪堂詩鈔跋會中川駿
太郎來贈雪堂公詩以熱海為受代夜針醫來
治此夕微雪

二十六日

朝來一白庭園此初雪所謂沒崔脛而已宮内出勤
納漢魏七十二家集八十卷附十卷於修史館此
存已邪〻秋羅盜手者今始返〻官二時半治金
杉溫泉邂逅一柳伊地知來一治到上杉本郷第
今日會森長義拜中繩縣大書記官巡田依願
免官拜大藏省御用掛賜俸金百圓此日中條山吉
小森澤森池田原小田切及小子等日至連印書
沖繩縣知事原家令傳先公之命謝家事諮問
紋羽織一枚及歸宅齋藤
篤來話及午前三時而休本村嘉平來遣金半

五四

二十七日

朝送書三島縣令及中川雪堂于福島北中川驛夫
今日發京
宮内出勤　政府擬擴張海陸軍新增酒及煙
草稅又令諸省為節儉大改大臣秉成委判官
内〻示心得書　我宮省提出書記官口達
晚來古藤入來卯内掃除代金就百圓地租五十四
持參外〻歲暮〻品茶一斤　初摘　二十五年
一袋枝　鹽節　白粉糖

齋藤篤信明日出発帰縣仍而業一行初指合ヲ
遣ス

二十八日 木 夜寒風烈敷肌三十二度 石炭出凍
当日宮内出勤 出勤もなく切り仕舞仍而宮内
卿輔ヘ謝す。夜光田對食 針灸
今日山岩村通俊及沖縄大書記官森長義出張 戸籍
朝鮮公使竹添進一郎出帆竹添氏花房氏後任ス
二十九日 金 ヒラ出発ヒ 撫東四
原三九郎川人来来 新年月四日後呈 [illegible]
[illegible]

三十日 [illegible]
ヒラ義ヒ士幕ヒ節機一反ヒ鴨一對 [illegible]
[illegible] 竹元ヒ [illegible] 新年四月 [illegible]
[illegible] 吉井ヒ行 [illegible] 坂ヒ鳥井坂ヒ過テ松方ノ別宅ヒ到ル 松方
不在ヒ [illegible] 伊藤ヒ [illegible] 宅ヒ到ル 書生ヒ [illegible]
濟ヒ [illegible] 清藤ヒ書狀 [illegible] 渡ス
[illegible] 伊地知ヒ [illegible] 松方ヒ [illegible]
[illegible] 伊地知ヒ [illegible] 懇賜 [illegible] 賜ハル 雪仍鴨ヒ肉
[illegible] ヒ [illegible]
税所ヒ [illegible] 宅ヒ [illegible] 書生ヒ [illegible]

青、真川嵯峨辺に到る。嵯峨の少年、古瓦を拾ひ、鴨二羽を買ふ。

夕、寒雨。午後、一人あり、筆地に川崎白鳥来る。

杉本兄弟、稲荷青、中井、加藤、来る。書画を表し、

合歓放歌放吟、却て世界無限なり。

一事無成、空白頭、過来四十之春秋、繞俗脱之餘日録

梅雨中日録

三條公、詩集一部、鴨一双を惜る。昨日、来る。上

鴨之生、鴨一双、生花を惜る。

三十首 時

午後、雨霽る。歌来る。吹青山、嵯峨、青山墓を墓所に所用

青山墓を墓所に所用

十五年歳晩金入高

一金百五十両　十二月分安房屋久左

一金二百両　十七年相陸武州分

一金五十両　十五年分地代ら

〆四百両

十五年歳暮拂高

一十五両　三河屋嘉兵

一二十四　長谷屋元吉郎

一二十四　近江屋元吉

一二四　近江屋弥兵

一五四　三軒屋白兵衛

一十四　川八郎兵

一七四　梅の屋

一十三四　芝三吉屋

一四四　梅の八百屋

一四円三十七銭　糸井乾代
一二円　平野俊吉代
一二円　長坂弘毅殿相殿
一七十銭　長坂代

一十四円五十銭　[illegible]代

一二十一円十銭　岩佐芳代
一十円　[illegible]代
一五円　林[illegible]代
一八十銭　[illegible]代
一十四　[illegible]
一十四円二十七銭　真木[illegible]代
一拾円　[illegible]
一五十銭　[illegible]
一十五銭　[illegible]
一十五銭　[illegible]代
一十五銭　山本[illegible]代

一五四
一五四
一十四
一四四
一三四
一五十歳
一四四年季　一一四七十五年　一一四五十年
一二四六十七年
一二四十六年
一五四年六年

孝子ハ歳を
経て時がし
ばらく十六年目終
乳母ハ月代
おだんなを養育
娶後歳を
婢僕月代三人
事まで
家物を三代
盛衰

一五四三十年
一五十歳
一五十年
一三四七十年
一五十年
一五十年
一五年
一四十六年
一五十七年

人力代
名代門人
金杉地蔵
婢僕ヲ和年
毒虫除
助者ハ和者
吉山養子
陸代
門ニ松飾
法華経

一二四六十銭　　義一郎
一三四四十銭　以下百二十四名分　　若宮鶴吉代
一十七四　　木村右上木村隆
一五四七十銭　　上野郡幸田村
一二十四　　厩番四郎吉
一一四　　綿代
一八四　　おかんぢ代
一五四　　三日庵
一五四　　近江新吉代
一五四　　子供の家族

一十五四四十八銭　　共立商社代
一三四三十六セン　　人力代
一十四　　金平居
一二四　　大八車業
一七十銭　　大八車賃
十三四　　岩代
一一四三十銭　　人力賃代
一十四三十八セン　三四ノ拂込　　同馬車所賃
一十四　上　　馬車賃
一十四四十八銭　　行相二反歩

一六四十三銭　鳴七郎武宗村一第俗　[redacted]　戒善ノ罵
一二四　[redacted]
一七四十三銭　[redacted]

十月ノ部

、伊地知吉井ノ宴會　、上杉ノ家令伴藩
、三條公ノ序文　、[redacted]氏ノ好書版[redacted]三四十銭
、黎氏紅葉館ノ會十三圓　、吉井向島ノ
、黎氏ノ序文　、上野[redacted]
、[redacted]ノ書簡　、神田[redacted]
、大下水積[redacted]
、黎氏重陽ノ會
、姚文棟松茂堂[redacted]四十五銭
、花房[redacted]二円

黃遵憲贈別 [illegible]

姚張鄉應 稅而吉井國都唐

勝出長禪紀

三條 樹孔

[illegible]稅不[illegible]

小嶋長政[illegible]

[illegible]見[illegible]

[illegible]

詩集[illegible]

原留

調停

佩文韻府 宋史[illegible]轍傳論

元祐朱政力行章蔡不主 調停 言傳 君子不黨子轍見之

劉克莊元祐黨籍碑詩 早日大程知反覆暮年小范要 仲淹大 純仁

調停

吳處厚論確不已安置新州呂大防劉摯 小范 純仁王存等以為不宜令過嶺遷死地 純仁曰北路荊棘八十年矣奈何開之吾曹政恐不免耳爭之不得臺諫文章攻純仁黨確純仁遂罷大防摯欲引用元豐黨以爭奮怒謂之調停 [illegible]轍等力陳其不可 呂大防調停之謂

鮮也當時俗語 轍上疏曰君子小人勢高氷炭同處爭一爭之後小人必勝君子必敗何者小人貪利忍恥擊之則難去君子

潔身重義退引退古語云一薫一蕕十年尚猶有臭蓋謂此其此輩若
返必將賊害天人謝後奮事以快私忿調傳之說遂已

古書目録

老子　莊子　申子　韓非子　淮南子　山海經　列子
白虎通　說文　世說　風俗通　戰國策　國語　孔子家語
晏子春秋　管子　荀子　素書　新書　說苑　孫子
呉子　六韜　三畧
藤原氏肥後三十四萬石　朝鮮人數　二百人幸侯　伊藤祐庸

慶長十五年ヨリ用ヒラル

十七日　去年宮内退下議論　幸侯　伊藤松吉ヲ江戸ニ向ル
対馬御国ノ伊野茶陽来　十七日　去年ノ柳幸侯ヲ送ル此柳史
十八日　去年用行九段坂迄柳幸侯送ル　十八日　昨日ノ茶ノ茶碗ヲ見物
二十日　天皇ノ遺ル　二十三　二十四　二十五　吉井ヲ呼ル　伊藤俊吉来